

解け広がる家型

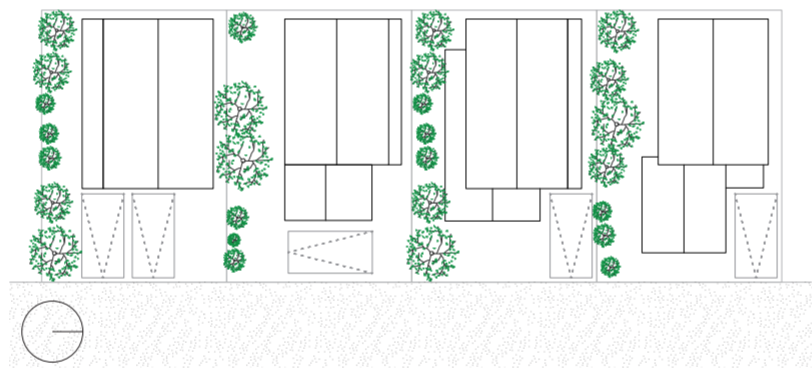
豊かな自然風景とは田舎でしか享受できないものなのだろうか。都市部や郊外の住宅地に住む人々にとって、それらは贅品のように扱われている。都市化・住宅地化が進んだ今、縁側でくつろぐような豊かな暮らしのカタチはいかに。

豊かな自然風景とは

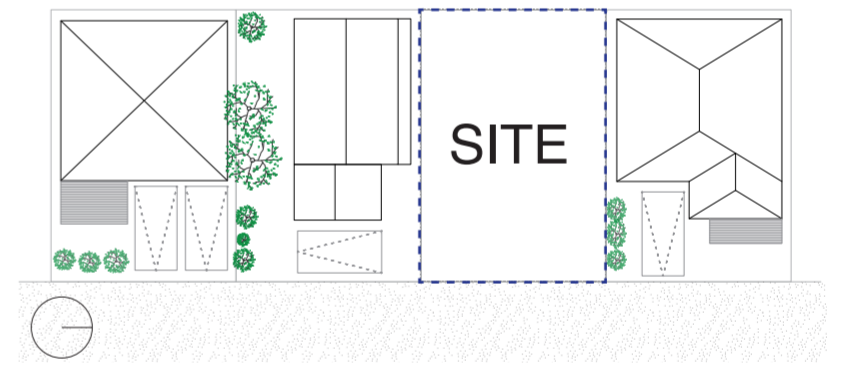
豊かな自然風景は今も昔も実は変わらない。ゆったりと見上げれば広がる空と雲の動き、季節ごとの風のおいや小さな庭にも茂る木々の移ろい。失われたのはむしろそれらを享受できる暮らしのカタチである。

住宅の連なる形式の変化

①かつての住宅地では揃って北に棟を寄せることで隣棟間に縁側や小さな庭の連続する様子が見られた。

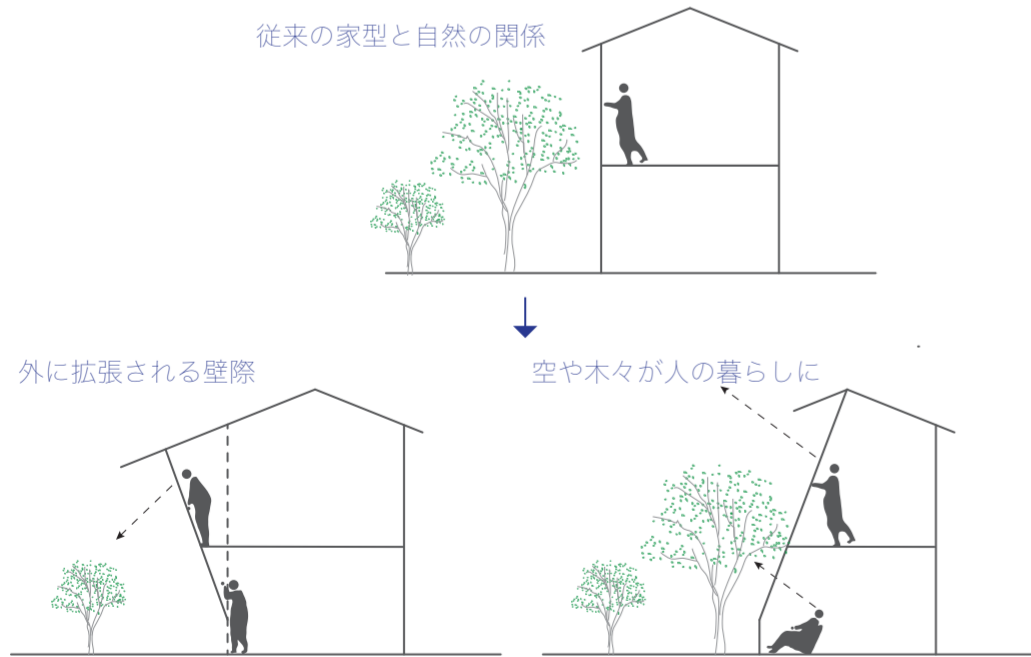


②昔のようにご近所さんは顔見知りというわけでもない。せっかくの大きな窓はカーテンが締め切られ、前庭では何をすることも居心地が悪いのかデッキスペースは使われない。

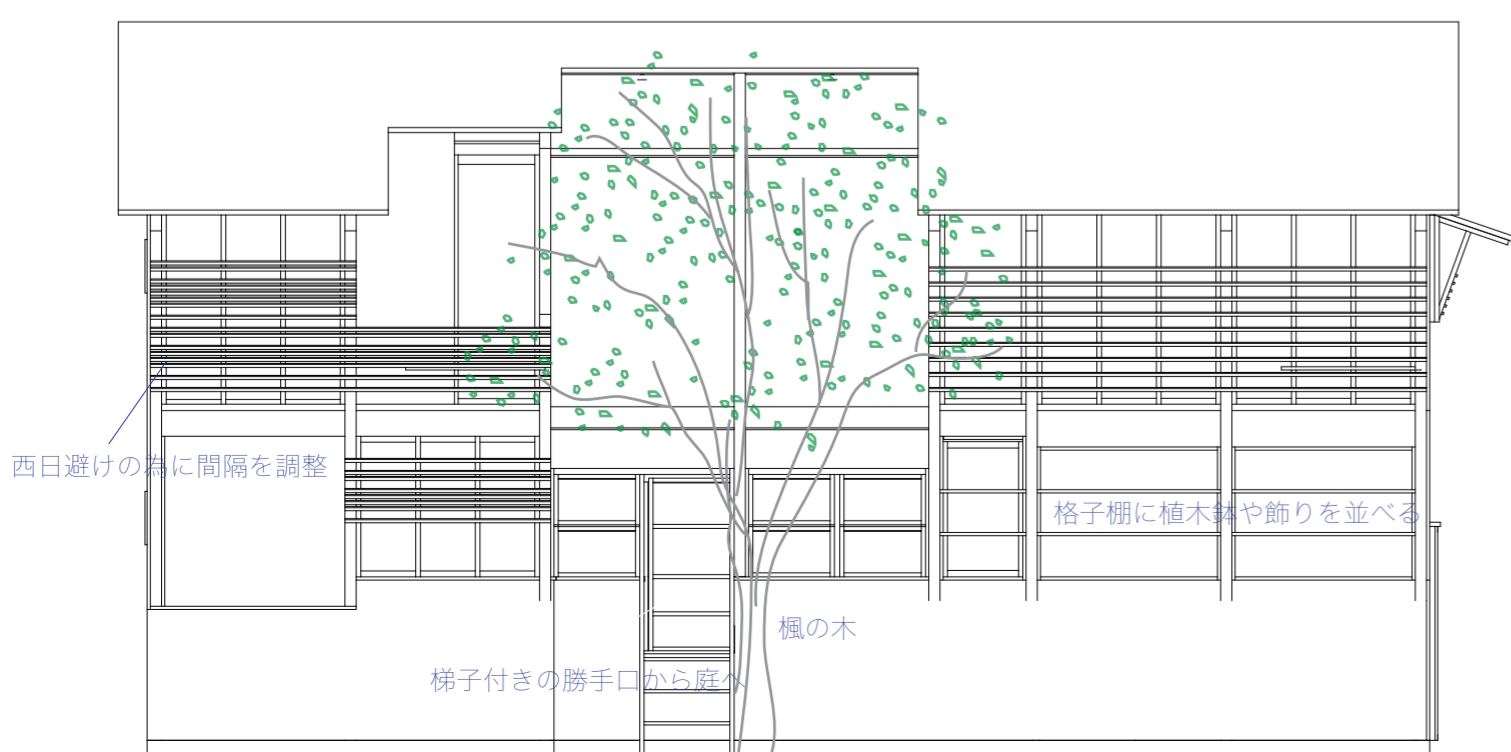
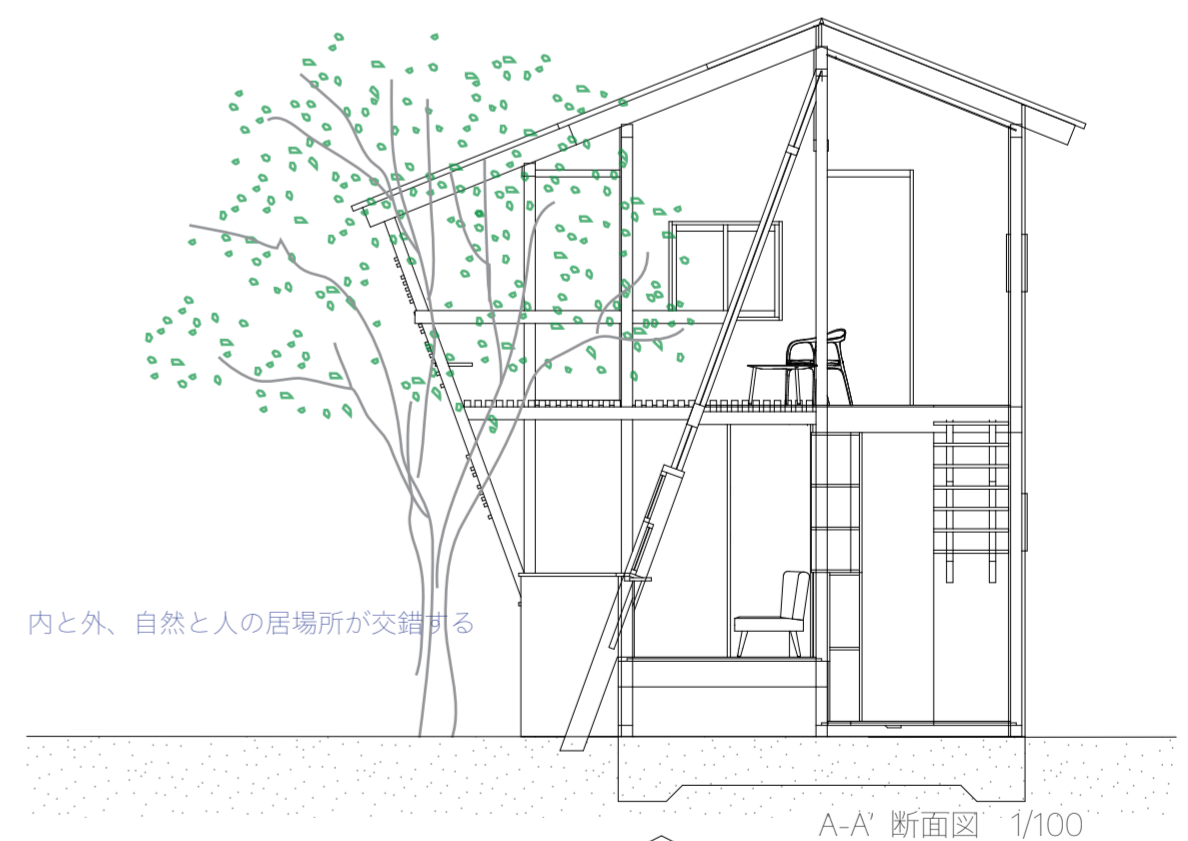
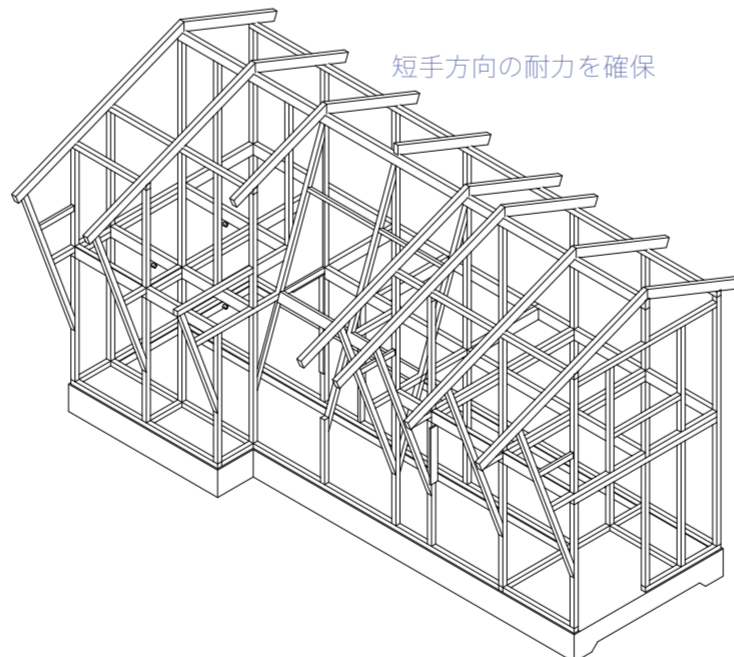


自然風景との暮らしを支える火打柱

自然風景を取り込む家形へ



斜材を使った構造体



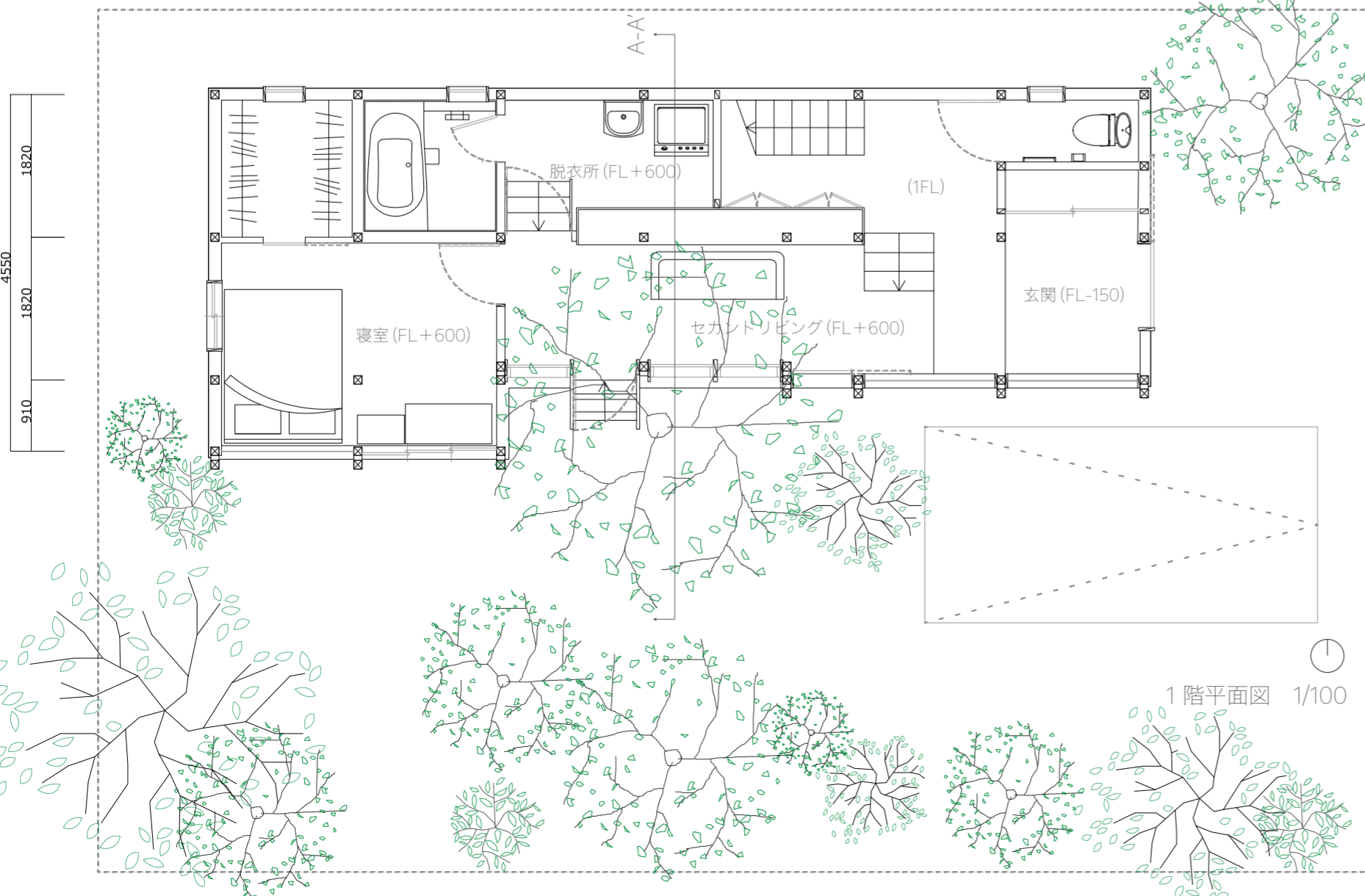
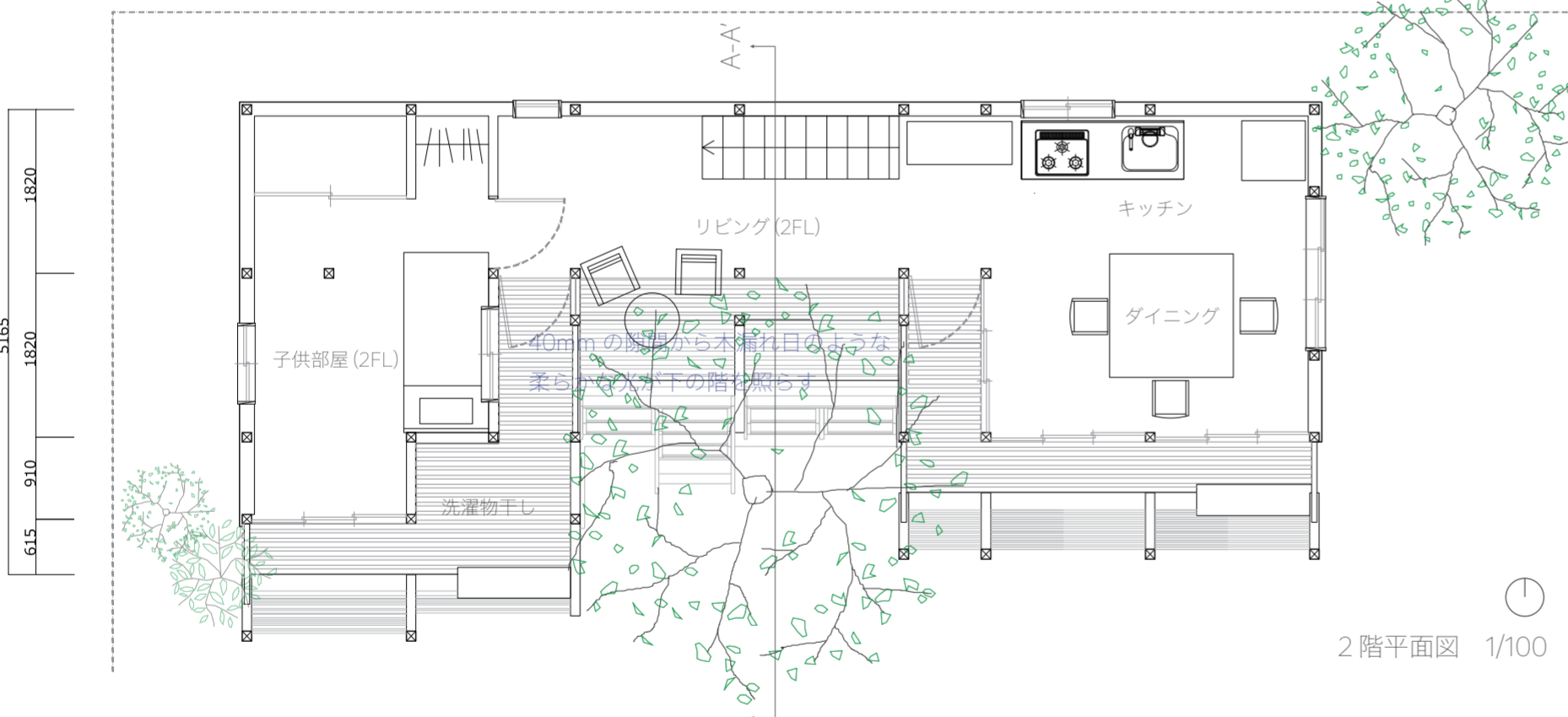
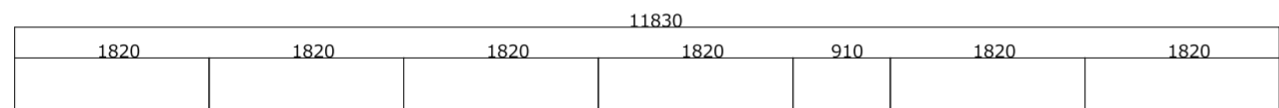


長手の庭に演出される” 今日はこちら”

南にとった庭に合わせて場面を転換する家族のスペース。
 ただっ広いリビングは必要ない。木陰や風の吹く場所を探すように小さな居場所を見つけていく方がずっと多様な暮らしになる。

母の機嫌は空模様

プライバシーの為にカーテンは必要ない。せり出した壁と木々が程よく暮らしを覆う。天気の変化には敏感になった。今日は星がよく見えそうだ何だと父は外で一服。



窓の外が気になればすぐに確かめに行く子供。自ら自然を掴みにいく。日常の中にそんな扉を開きたい。

